

又或程度まで優良鉱主が賃給しな
ければならぬ等、多量の問題
を伴ひ、一成立を見るに難い
も、常に大小の遊蕩炭質の調
斯かる好意なる手段では到底
を達することを得ないから、真
想を奮起せん、せは全礦の炭質
を合同して共同荷役共同販賣の
題を解決せしめなければならぬ
あらう、と炭質業者は語つた

採炭制限勵行

坑主同盟の打合せに係る採炭一
七分制限は今春以來、漸く行
れず、炭質すべき前の調査した所
は、制限行九分以下同じく不
八分以上の状態であつたが、斯く
は到底炭質の安定を期せられ
ので、採炭の制限を勵行する
會は、協定の結果、制限行の
分に對する九月より制限行一
極力炭質の趣旨に副はしむべく
に努めて居る

不正の大檢舉

斤先掘の不正があれは「ボシ」やる。
長の眉宇常になく緊張す
違犯はドコ迄及ぶ？

「ボシ」やる。違犯はドコ迄及ぶ？
大檢舉を始めた。採炭制限に
於ける如何しい斤先掘炭質の
大檢舉、その第一着手として先づ
田川郡、藤野、藤野、藤野、藤野、
同郡内の不正斤先掘炭質者二百
名を五十二萬坪に對して、限重封
鎖を行つた事は、報の通りである
。限重の手は管に夫れのみ止まら
ず、廿四からは更に九城、金川の
諸坑に伸ばされ、斤先掘炭質は何
れも、限重の有様である。十六
日以來、出炭取締に從事中の藤野
、安田、藤野、藤野、藤野、
結局は、

鑛業權者自らの問題

或は大變な目に會ふ
鑛業權者を出せんと

福岡縣警察が檢査の手を述べた斤
先掘はそのすべてが違犯では無論
ないが、取調がれれば怪しきは随
所にある大正、頃から
「狂烈」に襲來した不景氣
共に石炭が不況のドン底に沈むや
炭坑の休業放棄は相繼ぐさし、も
筑豊炭田も火の消れたやうに、パツ
タリと寂びてしまつたが、夫れ
に伴ふて、滅切り喧嘩のたが、夫等坑
夫の諸侯に依る斤先掘であつた
小は一人二人で、コソ、掘出す
掘りから大きい所では三十人五
十人の坑夫を入れて居るものもあ
る。彼等は本當の鑛業權者との間に斤
先掘りの契約はして居るものも正
現に認められた採掘でない爲めか
殆んどすべてが、採掘と云つてもい
ない位無資格な仕事をして居る無
限の採掘、火藥類の不正使用、働賃
金の不拂、運搬より閉する道路、梁
の破壊、公益障礙の損傷、婦女先
山使用、數へ来れば何所も此所も
違犯だらけであるがその違犯を二
十九年間も

平氣

でやつて居たものが
あるといふに至つては、てんで平氣に
ならぬ。露粉等では今度の検査を
キツカクに徹底的に取調の歩を進
めて不正なものば片づから鑛業

問題

「斤先掘が
の悪いのつて、鑛業者はそんなお
せつかいは決してしない。たゞ斤
先掘の爲めに鑛業法違犯があれは
先づ、鑛業權者の違犯と認むるた
けた」といつて居る。餘程考へて
居なければ斤先掘のために鑛業權
者は大變な目に遭ふやうな事にな
る。之もやはり不景氣の所産が大
正三年頃からの炭質不況も其後
少し宛頭を擡げて、昨今では休坑
たがそれでもまた、心細い昨年
末の調べで見ると、福岡縣下の炭坑
では採掘して居るものが百九十八坑
區(一億三千三百六十一萬九千八
二坪)で、休業中のものが二百六十八坑
區(五千九百四十一萬二千七百六
十七坪)で、鑛區數から見れば、休
中のものが多過ぎる。そして、昨年
中の出炭高が千四百六十二萬
五千六百九噸で、働いた坑夫が延人
員で三千五百九十九萬三千五百九
十六名だから、昨昔、炭質時代に出炭す
るの始んだお話しならぬ。そして之
等の

不景

氣に依つて生まれた
ものが、驚く可き斤先掘さなり無
任な産物となつた。鑛業權者
の「産物」に依つて、之を地底の整
理が行はる、か、筑豊炭田の恐慌は
實際大したものである